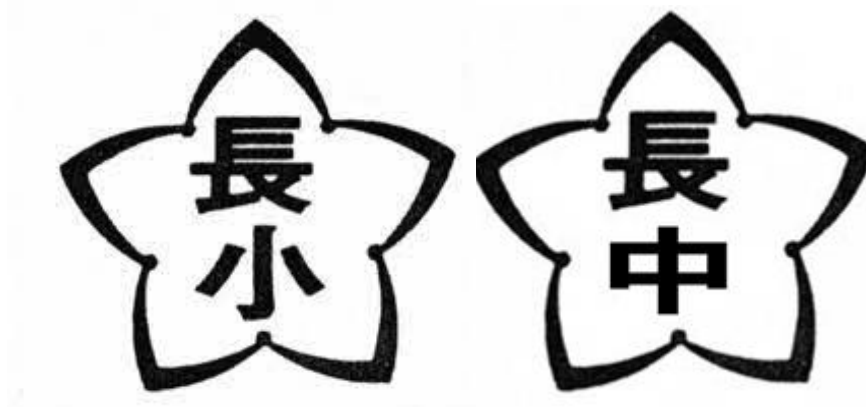


令和8年度
運営に関する計画
(学校関係者評価・中間評価)



令和8年10月15日
大阪市立長谷川小中学校

1 学校運営の中期目標

現 状

本校は、多様な特性を持ち心理治療が必要なために隣接する長谷川羽曳野学園で生活をしている児童生徒が通う学びの場であり、「学園外唯一の社会的な学びの場」になっている。学校教育目標「生きてはたらく力と自ら学ぶ力の育成」をグランドデザインに掲げ、教職員は児童生徒へのアプローチのスキルを磨いている。また、本市事業の学校規模ポジティブ行動支援（以下、SWPBS）を実施し、大阪教育大学の支援を受けている。

小中学校とも、これまでの教職員の経験知による生活指導をやめ、児童生徒へのアプローチを重視している。授業内容や好ましい行動等を事前に予告し、傾聴・承認・称賛・次への振り返りなどの組織的な同じアプローチを行い、チーム学校による業務分担を組織に定着させ、安心できる教育環境づくりでは一定の効果があらわれている。また、大阪教育大学教育学部教育協働学科教育心理科学部門と連携し、学生の実習指導も行っている。

令和 8 年度から 2 年間、文部科学省の教育課程柔軟化サキドリ研究校事業の指定校となり、小中授業を 5 分短縮して生まれた余白の時間を活用して、小中で探究学習を実施し情報活用能力の抜本的な向上をめざし、GIGA 端末の活用率は 100%である。また、余白の時間帯に教職員の会議を行うことで、放課後は教職員の裁量の時間として活用する。

課 題

本校教職員は、個々のトラウマを抱える児童生徒と信頼関係を構築するのに半年程度を要する。これまでは、児童生徒のトラウマに対して正しいアプローチができておらず、教職員の経験知による効果のない介入により、教職員への反発、授業妨害、暴言、逆に教職員による甘やかしも行われ、その結果、学校がつらく休みがちになる教職員が増えるなど、その緩和のためカリキュラム・マネジメントが適切に実施できていなかった。

そこで、中教審の論点整理にある「多様性の包摂」を重視し、令和 7 年度は児童生徒が抱える多様な特性に対して、学校の環境をあわせる組織変更を 2 つ取り入れた。1 つ目は 8 月末から課題のある中 2 の学級担任を変更したことで生徒の安心感が向上したこと、2 つ目は中 1 を小 6 の隣の教室に移動して小中の段差解消を行った。常に小学校教員からの支援が得られるなど、児童生徒の学校生活への安心感と学習規律に効果が表れた。

小中の学校組織を一体化し、探究学習に加えて、生活指導面で定着している小学校の SWPBS を、そのまま中学校でも効果をもたらすように時間をかけて取り組むことで、特に、課題である児童生徒の自己調整力や教職員と関係性等を更に向上させたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】****〔小学校〕**

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 69.0%以上にする。

○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 97.0%以上にする。

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78.0%以上にする。

〔中学校〕

○年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 79.0%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 56.0%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 56.0%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〔小学校〕

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 69.0%以上にする。

○小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93.0%以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100%にする。

〔中学校〕

○年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 79.0%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 56.0%以上にする。

○年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 87.0%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

〔小学校〕

○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.0%以上にする。

○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、

- ・教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。
- ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。
- ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。

〔中学校〕

- 年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 72.0%以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、
 - ・教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 30 時間以下とする。
 - ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。
 - ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

〔小学校〕

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 67.0%以上にする。(R7 年度 66.7%)
- 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96.0%以上にする。(R7 年度 95.0%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.0%以上にする。(R7 年度 75.0%)

〔中学校〕

- 年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 77.0%以上にする。(R7 年度 76.9%)
- 年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)
- 年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〔小学校〕

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 67.0%以上にする。(R7 年度 66.7%)
- 小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91.0%以上にする。(R7 年度 90.9%)
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100%にする。(R7 年度 100%)

【中学校】

- 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 77.0%以上にする。(R7 年度 76.9%)
- 年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)
- 年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85.0%以上にする。
(R7 年度 84.6%)

【学びを支える教育環境の充実】

【小学校】

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.0%以上にする。(R7 年度 75.0%)
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、(R7 年度・20 時間以下・ゼロ・ゼロ)
 - ・教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。
 - ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。
 - ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。

【中学校】

- 年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70.0%以上にする。(R7 年度 69.2%)
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、(R7 年度・30 時間以下・ゼロ・ゼロ)
 - ・教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 30 時間以下とする。
 - ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。
 - ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立長谷川小中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 〔小学校〕 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 67.0%以上にする。(R7 年度 66.7%)【7 月校内 100%↑】 ○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96.0%以上にする。(R7 年度 95.0%)【7 月校内 100%↑】 ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.0%以上にする。(R7 年度 75.0%)【7 月校内 100%↑】 〔中学校〕 ○年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 77.0%以上にする。(R7 年度 76.9%)【7 月 93.3%↑】 ○年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)【7 月 66.7%↑】 ○年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。(R7 年度 53.8%)【7 月 60.0%↑】	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (小・中生指部) 児童生徒と教職員がともに安心して生活を送ることができるように、SWPBS を小・中学校ともに実施し、生活指導上の基盤として持続可能にする。 指標 ・小・中学校ともに、<u>共通したマトリクス(SWPBS の枠組み)を作成</u>することで、校内に一貫したアプローチや望ましい行動を明確化し、教職員から称賛される雰囲気醸成しながら、児童生徒の望ましい行動の増加をねらう。 ・SWPBS の取り組みを通じて児童会と生徒会が協働して、SWPBS 協調週間を運営するなど、<u>児童生徒が学校運営に参画</u>できるような取り組みを実施する。 ・月1回 PBSPJ(プロジェクトチーム会議)を設け、SWPBS の方向性や進捗状況を把握し共有することで、教職員が協働しながら、時間をかけて生活指導上の基盤として持続可能にする。 ・令和8年度の校内調査「勤務校の他の教職員になじんでいると感じますか。」に対して、肯定的に回答する小学校教職員の割合を 91%以上(昨年度 90.0%)、中学校教職員の割合を 57%以上(昨年度 56.3%)にする。 【7 月小 90.9%↓・中 73.3%↑】	

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】（小・中生指部） 好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団の育成を推進する。	
指標 ・いじめアンケート（学期1回以上）を、GIGA 学習端末を活用して実施する。 ・児童理解、学力向上研修会を年2回実施する。 ・学園職員との児童・生徒に関わる連絡会を月に1回実施する。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】（小・中保健体育） 楽しい学校生活を送るとともに、「生きてはたらく力」の醸成を推進する。	
指標 ・SWPBS を基盤としたライフスキル教育により、肯定的な行動をしやすい雰囲気を作る。 ・令和8年度校内調査(新規項目)「昨年と比べ、自分に成長したところはあると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合をともに75%以上、生徒の割合を75%以上にする。【7月小100%↑・中80.0%↑】	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①各校で共通のSWPBSマトリクスを作成し、PBSPJを通して取組の方向性を共有している。 ②いじめアンケート及び学園職員との連絡会を計画通り実施し、児童生徒の実態把握と情報共有に努めている。 ③SWPBS を基盤としたライフスキル教育を実施することで、子どもたちは「がんばったこと」「できるようになったこと」に視点を置き、成功体験を体得できるようにしている。	
後期への改善点	
①③中学校において、称賛方法を具体化し、教職員間で共通理解を図り、10月初旬からSWPBSの取組を開始し、児童生徒を学校運営に参画できる仕組みを構築していく必要がある。実施後は、児童生徒の行動の変化を把握し、成果と課題を見取り、よりよい取り組みへと持続的発展させていく必要がある。 ②内容事項を明確化した学園職員との連絡会を通して情報共有を継続し、児童生徒への適切な支援につなげ、学園職員とも協働しながら児童生徒の健全育成を図り、望ましい行動が実行されるようにし、生きてはたらく力の醸成を推進していく。	

大阪市立長谷川小中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 〔小学校〕 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 67.0%以上にする。(R7 年度 66.7%) 【7 月校内 100% ↑】 ○小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91.0%以上にする。 (R7 年度 90.9%) 【7 月校内 100% ↑】 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100%にする。 (R7 年度 100%) 【7 月校内 90.0% ↓】 〔中学校〕 ○年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 77.0%以上にする。(R7 年度 76.9%) 【7 月 86.7% ↑】 ○年度目標アンケートにおける「総合的な学習の時間や各教科等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 54.0%以上にする。 (R7 年度 53.8%) 【7 月 73.3% ↑】 ○年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85.0%以上にする。 (R7 年度 84.6%) 【7 月 80.0% ↓】	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（小・中教務部） 文部科学省の教育課程柔軟化サキドリ研究校事業に基づき、小・中学校ともに余白を活用した探究学習に取り組み、児童生徒の情報活用能力を抜本的に向上する。 指標 ・短縮して創出した余白の時間を活用して、言語能力・情報活用能力を向上する。 ・児童生徒自らが課題設定し、情報の収集・整理と分析・まとめと表現等の主体的で協働的な学習を通じて、問題解決策を見出していくスパイラルを、前期に2回以上、後期に2回以上実施する。 ・探究学習で得られた知見を教育研究会やフォーラム等で公表する。	

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 小・中学校が共同して学力向上・言語力向上に取り組む。(小:生指部・中:教務部)	
指標 ・言語活動の充実のため、SWPBS を基盤としたライフスキル教育に取り組む。 ・教員全員が年1回以上の研究授業に取り組む。 ・小学校においては、四則計算の流暢性を高める算数チャレンジに毎時間取り組む。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 基礎体力の向上を目指し、主体的に運動に取り組む児童を育てる。(小・中体育)	
指標 ・小学校においては、がんばりカードを作成し活用する。 ・中学校においては保健体育用ファイルを活用し、配布物を整理させることで、学習内容の振り返りと課題把握につなげる。 ・毎時間の準備運動にバランス感覚や柔軟性を養う運動を取り入れる。 ・夢授業等でトップアスリートと触れ合う時間を大切にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 小学校では、短縮して創出した余白の時間を活用して、毎週火曜日と木曜日の午後より探究的な学びの時間に取り組んだ。一人ひとりの関心や実態に合わせてテーマを決め異学年で学ぶ中でお互いに情報を共有し合ったり、パソコン操作を教え合ったりした。7月児童アンケートでは「学習者端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に肯定的に回答する児童が100%となった。 中学校では、年間3回の探究学習を設定した。1回目の探究を通じて、2回目以降のマイ探究の課題の設定方法や、解決に至るまでの観察や調べ方を学習した。生徒アンケートでは「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか」に肯定的に答える生徒は80%から86.7%となった。 ② 小学校では、運動会や暗唱大会のあとに、自分や他人のがんばりを認め称賛しあった。7月の児童アンケートでは「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることができますか。」に肯定的に回答する児童が100%となった。そう思うと回答する児童の割合は79%となった。 中学校では、SWPBS のマトリクスを作成し、生徒へのアプローチ方法を教員が一致して行えるようにした。 ③ 小学校では、体育科の学習で毎時間の準備運動時にリズムジャンプに取り組んでいる。力の入れ方と抜き方を意識して、走る・跳ぶ動作が向上するように、がんばりカードやふりかえりカードを使って記録したり、声かけしたりしてスモールステップをふませている。 中学校では、年度当初に保健体育用ファイルを活用し、学習内容の振り返りや配布物の整理に取り組んだが、継続的な活用には至っていない。一方、毎時間の導入において、バランス感覚や柔軟性を養う運動をウォーミングアップとして取り入れ、基礎体力の向上に取り組んでいる。	

後期への改善点
①中学校では、2回目以降の探究学習をマイ探究とすることで、生徒が自ら決めたテーマについて調べる。教員からの協力を受けながら、より深く考え、発表の形式を決めることができるようにしていく予定である。 ②言語活動の充実を図るため、継続し SWPBS の観点をもったライフスキル教育の充実を推進していく。基礎学力の定着を図るためにも、算数科の時間などを活用し、算数チャレンジに取り組む必要がある。 ③中学校では、保健体育用ファイルの活用方法や実施する場面を明確にし、単元の振り返りや課題把握に継続して活用する。また、ウォーミングアップについては、児童生徒の実態や学習内容に応じて運動を工夫し、基礎体力の向上につなげる。 小学校では、運動量の確保や運動の楽しさを味わわせる活動に主眼を置いていましたが、今後は児童が自身のめあてを設定し、その変容を主観的・客観的に捉えられるように、がんばりカードを導入・活用を増やすようにする。

大阪市立長谷川小・中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 〔小学校〕 ○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.0%以上にする。 (R7 年度 75.0%) 【7 月校内 100%↑】 ○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、(R7 年度・20 時間以下・ゼロ・ゼロ) ・教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。 【4 月 100%・5 月 100%・6 月 88.89%・7 月 100%・8 月 100%・9 月 100%】 ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。達成 ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。達成 〔中学校〕 ○年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70.0%以上にする。 (R7 年度 69.2%) 【7 月 86.7%↑】 ○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、(R7 年度・30 時間以下・ゼロ・ゼロ) ・教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 30 時間以下とする。 【4 月 100%・5 月 92.31%・6 月 84.62%・7 月 100%・8 月 100%・9 月 100%】 ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。達成 ・時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。達成	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 学習者用端末を活用した学習の推進や表現力を養うために、デジタル教材を用いた学習課題や他者へのプレゼンを行う等の授業改善に取り組む。(小・中 ICT) 指標 ・令和 8 年度校内調査「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100%(昨年度 100%)、生徒の割合を 54%以上(昨年度 53.8%)にする。 【7 月小 100%・中 86.7%↑】 ・令和 8 年度校内調査「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上(昨年度 81.7%)、生徒の割合を 70.0%以上(昨年度 69.2%)にする。 【7 月小 100%・中 86.7%↑】	

取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 文部科学省の教育課程柔軟化サキドリ研究校事業に基づき、短縮して創出した余白の時間(週 2 回 6 限の時間帯)を活用して、小・中学校教職員の研修会や会議等を実施し、教職員が主体的に意思決定できる新たな組織づくりを進める。(校長) 指標 ・小・中学校一体となった組織づくりをめざし、水曜と金曜の 6 限を活用して、職員連絡会・部会・各種委員会・打合せ等の多くの会議や、探究学習・SWPBS 等の研修会やプロジェクト会議を設定するなど、教職員が主体的・協働的に研修会や会議の企画運営に取り組む。 ・その効果により、小・中学校で 16 時以降の教職員の裁量の時間を確保する。 ・令和 8 年度校内アンケート「学校の教育課題について教職員でよく話し合い、共通理解のもと同じ方向で事に当たっていますか。」に対して、肯定的に回答する小学校教職員の割合を 71%以上(昨年度 70.0%)、中学校教職員の割合を 57%以上(昨年度 56.3%)にする。【7 月小 81.8%↑・中 73.3%↑】	
取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 長時間勤務の解消に向けた意識を醸成し、実情に合わせた働き方を進めるなど、教職員にとって働きがいのある職場環境づくりに取り組む。(管理職) 指標 ・退勤目標時刻を設定するとともに、時間外勤務時間の状況について、毎月教職員に個別に通知する。 ・令和 8 年度校内調査「自分が勤務校の重要な一員であると感じますか。」に対して、肯定的に回答する小学校教職員の割合を 71%以上(昨年度 70.0%)、中学校教職員の割合を 44%以上(昨年度 43.8%)にする。【7 月小 81.8%↑・中 60.0%↑】 ・令和 8 年度校内調査「勤務校の他の教職員からサポートされていると感じますか。」に対して、肯定的に回答する小学校教職員の割合を 100%(昨年度 100%)、中学校教職員の割合を 69%以上(昨年度 68.8%)にする。【7 月小 81.8%↓・中 93.3%↑】	
取組内容④【基本的な方向 8 生涯学習の支援】(小：図書担当) 各教科における言語活動の充実を図りながら、図書室を効果的に利用する。 指標 ・小学校においては、外部(東住吉図書館・藤井寺図書館等)からの講師を招き、読み聞かせを実施する(学期 2 回)。学習したことを発表する場を作る(年 3 回)。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 ①教科学習の基礎を定着させるため、週 5 時間以上学習者用端末を活用した。また、探究学習に取り組むことで、端末を活用して自分の考えや意見を伝えたり共有したり比べたりする機会が増えた。そのため端末の扱い方に慣れ、教科学習でもパワーポイントを使って発表する活動を取り入れるようになってきている。 ② 小学校においても、1 学期途中から授業終了後に児童に関する情報交換を職員室で行うことにより、組織的同じアプローチができつつある。 ③ 時間外勤務時間の多い教職員に対して面談を行っている。 ④外部講師を招いての読み聞かせを予定通り実施できている。また、読み聞かせの内容が既習の場合など、「〇〇で習った!」とつながりに気づき、さらに学びを深め、進んで本を借りる姿が見られた。探究学習や教科学習など機会があるごとに、図書室の本を活用できている。調べた内容をパワーポイントやリーフレットなどにまとめ、発表する活動を既に 3 回以上実施できている。	

後期への改善点

- ① 探究学習に限らず、教科学習において、学習者用端末を用いた授業改善や授業方法を模索し、児童生徒の課題解決能力の育成を図る必要がある。また、調べた情報が正しいのかどうかなど情報モラル教育・情報リテラシーにも取り組む必要がある。児童生徒がより正しく効率的、より深い学習者用端末の活用になるようにしていく。
- ② 教職員間の組織的同じアプローチを徹底するために、児童の問題行動を小さなことでも話し合える人間関係を構築していく。
- ③ 業務が偏らないように配慮を行う。
- ④ 探究学習や教科学習に限らず、児童が疑問に思った時など、日常的に図書室の本を活用して調べやすくなるよう、図書室の開放時間延長や、貸出ルールを改善を模索していく必要がある。